

## 2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年 3月29日

報告者	学科名	工芸工業デザイン学科	職名	教授	氏名	南川 茂樹
研究課題	実践から学ぶ機能と形態との関係についての教育的研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	南川 茂樹	工芸工業デザイン学科・教授	プロダクトデザイン	機能と形態との関係性造形デザイン	
	分担者	仁科 聡	岡山県民藝振興株式会社・取締役営業部長	民藝品、工藝品の振興	民藝品、工藝品の選定技法、素材の教示	
研究実績の概要	<p>サンプルとなる生活のさまざまな道具類を収集し、教員管理のもと学生に一定期間貸し出し、学生はその道具を日常の中で実際に使ってみる。その使用感（機能）と形（形態）との関係を体感から考察する。僅かな形状の違い、素材の違い、技法の違いによって起こる差異を感じ取り、考察記録としてまとめる。その考察を自らの制作に反映させる。</p> <p>日常の中でさまざまな道具を体験することは理想であるが、現実的には膨大な時間と費用が発生する。専門家に道具を選定してもらい、この研究資金によって多数の道具類を収集できれば、学生たちにこの貴重な体験を与えることができる。</p> <p>この体験を通して、デザイン提案の造形的アウトプットに多大な効果を得ることができると、研究を進めた。</p> <p>まず、生活の道具の選出から始めた。</p> <p>岡山県民藝振興株式会社・取締役営業部長の仁科氏により、衣食住に関する道具を用途別に分類し、その中から、工芸・民藝の分野で実際に手に入るものを選定していただいた。</p> <p>以下そのリスト</p> <p>木製パン皿：2点 木ベラ：2点 木製匙：9点 めんつ：2点 漆椀：2点 木の浅鉢：2点 飯碗：2点 ガラスコップ：3点 がま細工手提げ：1点 いかご：1点 真鍮カトラリー：8点 ノッティング：2点 竹製カゴ：1点</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>それらの道具類の一覧表を制作し、さらに貸出を促す告知ポスターを制作しデザイン学部内に掲示した。</p> <p>しかし、コロナ禍の影響か直接口にするものの使用に関わる問題か、貸出を希望する学生はいなかった。これも何が原因か調査しないとわからないが、当初の計画通りには行かなかった。</p> <p>実際に使用する学生がいなく検証ができなかったが、プロダクトデザイン演習Ⅱの授業内で、しゃもじのデザインをするテーマの際、実際にこのうちの木ペラをサンプルに使用し、使用感を体感してもらった。形状や材質の違いからくる使用感の差を感じてもらえ、学生自身によるアウトプットに充分役に立った。このことは、この研究の有効性に手応えを感じた。</p> <p>これを踏まえ、今後の課題として、貸出を促す工夫を考え、道具類を民藝・工藝の分野にとどまらず、プロダクト製品も加えて検討を進めたい。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>貸出品一覧表 貸出を促す告知ポスター（縮刷版）</p>